知能爆発（AI R&D自動化）が迫る知財の実務と戦略の激変

知能爆発（AI R&D自動化）の衝撃

AIが研究開発を自動化・加速



従来の知財制度

シナリオ別知財環境の変化



進歩性判断：
AIを使う当業者への漸速的引き上げ

権利の価値：
20年の存続期間を前提とした維持

戦略の重心：
特許とノウハウの併用管理







S1：緩やかな加速

進歩性判断：
組み合わせ・最適化の多くが容易想到化

権利の価値：
権利化前に陳腐化し特許価値が著しく低下



S2：急激な知能爆発

戦略の重心：
営業秘密・実装速度・計算資源・データへ移動

3大インパクト

権利保護の時間軸と技術寿命の致命的乖離



権利化時点には技術が陳腐化、20年存続が無意味に。

「AIを使う当業者」による進歩性・新規性ハードルの高騰



AIを使う当業者に解決す寂消したや新規性やデザインを解減。

組み合わせや最適化型の発明は大半が容易想到とみなされ無効化リスクが激増。

特許から「営業秘密・実装速度・計算資源」への価値シフト



営業秘密
閾示リスクを避け、モデル罷みや評価系を秘匿する動きが加速。

実装速度

計算資源
営業秘密・実装速度・計算資源・データへ移動

企業知財部門が直ちに講じるべきアクション

人間の「創作的寄与」の徹底的な証拠化・運用定着



課題設定、プロンプト、出力凝則・検証における自然人の役割を厳格に記録。

出願／秘匿（営業秘密）の判定基準の再設計



横做検知の難暑度や技術寿命を軸に、モデル重み等を原則宮業絨麿へ移行。

AI自動化指標をトリガーとする「シナリオ型知財戦略」構築



先行指標の閻値到連で戦略を即座に切り替え、柔軟に対応。

Gemini Notebook